2008 年度 修了

個人の決定を促す要因とそのあり方
― 医師という職業を選択する過程 ―

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
石川　伸子

本研究は、アイデンティティの形成における他者の影響に注目し、家族という観点をふまえ、特殊な継承性の高さをもつ医師という職業を選択する進路過程を分析することを目的とする。

職業選択は青年のアイデンティティ形成において重要な課題であり、その形成過程には他者の存在が大きく影響している。医師は親からの職業期待が他の職業に比べて特徴的に高く、また職業継承性も他の職業に比べて特徴的に高い。これはつまり、医師である親の期待や家庭の雰囲気が他の職業の場合と比べて特殊なものであり、医師ならではの特殊な影響として子どもの職業選択に大きく関与していると考えられる。

そこで、本研究では、親が医師である子どもが医師になった場合と、親が医師でない子どもが医師になった場合の進路選択過程を分析することにより、親の職業という影響がどのように存在するのかを明らかにすることを目指した。

対象者には進路選択の過程をインタビューし、その過程にみられる要因を整理することで、親が医師である場合と親が医師でない場合で、個人に与える影響のあり方が違うことが示された。調査の結果、医学部を選択する過程に影響を与える要因は、医師や病院への身近さ、医学部の上位性、周囲の影響や期待といった、個人の外に存在するものであった。親が医師の場合は、これらの要因から生まれる個人への影響が大きくなり、結果として消極的な選択となることが示された。また、親が医師でない場合は、これらの要因はむしろ教育現場といった家庭の外で意識され、医師についての情報を得るための行動が結果として積極的な進路選択行動に結びついていることも示された。

今後はさらに多くの対象者の結果をふまえ、親の職業や親の態度といった要因がある特定の進路を目指す過程においてどのように影響しているかを検討する必要がある。